平成24年度　第１回　まちづくり審議会　議事要旨

日　時　平成24年8月27日（月）10：00～12:00
場　所　兵庫県民会館10階　「福の間」
出席者　相川康子委員　片山朋子委員　神戸一生委員　北村泰寿委員　鳴海邦碩会長
根本敏行副会長　樋口信子委員　平田富士男委員　室﨑千重委員
森津秀夫委員　伊藤傑委員　迎山志保委員　蓬莱務委員　古谷博委員

１　議事の概要

(1) 出席委員確認

14名の委員の出席により審議会成立。

(2) 審議事項

まちづくり基本方針検討委員会において作成された「まちづくり基本方針」の改定素案を基に、事務局から説明を行うとともに、検討委員会での議論等を根本副会長から報告。その後意見交換を行った。

２　主な意見交換

【委　員】

・　（改定素案は、）まちづくり部局が実効性を担保できる範囲に絞り込み、ボリュームをコンパクトにした。
・　兵庫県らしく地域特性に着目して、メリハリのあるリーディングプロジェクトを提示した。
・　今後利用される基本方針とするため、改正素案は、市町や住民主体の取組が促進されるよう、アクションプラン型とした。
・　今後の検討課題として、４つの地域区分相互の連携、他部局との連携について整理する必要がある。

【委　員】

・　都市への人口集中を考えているのか、分散を考えているのか、視点がはっきりしていない。分散を目指すのであればＩＴの活用が有効である。

【事務局】

・　分散と集中について、全体としては、それぞれがその地域らしい生活を送ることを目標としている。例えば地方都市が輝くために土地の集約を地域の中で取り組んでもらうようなことと考えている。
・　ＩＴの活用は、時代背景で触れているが、それぞれの施策で取り入れていくべきものと考えている。

【委　員】

・　ニュータウン（ＮＴ）が、ゆっくりと自然に帰ることも検討してはどうか。

【事務局】

・　地域が縮小していくことは前提として考えているため、懸念されるシナリオで記述しているが、表現については検討する。

【委　員】

・　県として、各地域の課題にも個別に対応する姿勢を見せてほしい。

【委　員】

・　地域間の連携は理想的だが、現実は難しい。人口密度を維持させる地域、それとは別に暮らしを維持しいく地域に分けるなど明記すべきである。
・　高層マンションの建設、ＮＴ敷地分割など、局地的には人口密度があがっており、

まちづくりの方針に反する動きの抑制について記述すべきである。
・　「郊外ＮＴ」の名称は再考すべきである。

【委　員】
・　市町がまちづくりをしやすい観点に配慮してほしい。

【委　員】
・　「空き空間」という言葉の定義がはっきりしていない。
・　まちづくりの対象については、視点２の考え方（ハード・ソフトでの区分）で単純に区分はできる時代ではないので、検討が必要である。

【委　員】
・　地域区分の「郊外ＮＴ」の定義には、計画的 NT と都市の郊外地域の両方が含まれており、わかりにくいため記述を工夫する。

【委　員】
・　地域の４類型の相互関係を記述してほしい。
・　縮退のまちづくりの考え方をどう見せていくか。最も課題が大きいと思われる集落で、ゆるやかな衰退、地域で幸せに暮らす観点を示したい。アドバイザー派遣だけでいいのか、村移りへの緩やかなプログラム等の検討に入る必要がある。

【委　員】
・　縮退のまちづくりは住民が選択すべき課題である。しかし上手に店じまいできるような仕組み・施策を考えることは可能である。

【委　員】
・　基本コンセプトで、持続可能なまちづくりを「未来」で表現するとわかりにくいのではないか。
・　都市中心部の重点プロジェクト名に「ひょうご」という文言では、都市の個性がないのではと感じられる。

【委　員】
・　視点１（わかりやすさの向上）を記載する必要はない。
・　パブコメに向けて見やすいよう配慮が必要。
・　「懸念されるシナリオ」については、県民に問題意識を伝えるのはいいが、脅迫感のある表現となっている。そこまでひどくならないと思うので、適切な文章表現をしてほしい。

【委　員】
・　県の役割について、まちづくりのサポートだけでなく、その戦略づくりもあるのではないか。

【委　員】
・　改正素案は現状維持のように見える。兵庫県に住みたいと思わせる夢のある、わくわくする内容も方針に盛り込むべきである。
・　神戸市に対してもリーダーシップをとってほしい。

【委　員】
・　住民を一番に考えて、県と市町（神戸市も含む）の役割分担（どこがイニシアティブをとるのか）を配慮してほしい。

【委　員】
・　人口減少の問題をまちづくりの面で考えるには、歴史的な観点も必要である。2060 年の人口は 1960 年くらいの人口と同じ。そう考えると、人口減少は悪いことばかりではなく、使える環境のゆとりが増える。そういう観点から、様々な社会現象を冷静に捉えておくべきである。